

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
戦略的原子力共同研究プログラム
事後評価総合所見**

<p>研究課題名：高温ガス炉の確率論的安全評価手法の開発 代表研究者（研究機関名）：佐藤 博之（日本原子力研究開発機構） 再委託先研究責任者（研究機関名）：牟田 仁（東京都市大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：糸井 達哉（東京大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：池田 孝夫（日揮株式会社） 研究期間及び研究費：平成27年度～平成29年度（3年計画） 56百万円</p>					
項目	要 約				
1. 研究の概要	<p>高温ガス炉の設計上、安全上の特徴を考慮した確率論的安全評価手法の確立を目標に、高温工学試験研究炉（HTTR）の運転経験に基づく故障率推定手法や、グレーデッドアプローチを取り入れた事故シーケンス頻度評価手法、黒鉛構造物の損傷を考慮した事故影響評価手法を構築することを目的とし、以下の研究開発を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事故シーケンス頻度評価手法の開発 2) 影響評価手法の開発 3) 実用高温ガス炉への適用性評価 				
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 10%; font-weight: bold;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・高温ガス炉を対象とした外的事象である地震起因の事故シーケンスを確率論的リスク評価手法により定量化するための手法を高温ガス炉の運転経験より得られたデータを用いて開発しており、独自の成果を得ていることは高く評価できる。 ・高温ガス炉に特有のものであるため、波及効果は限定的と考えられる。 </td> </tr> <tr> <td></td> <td> <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p> </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高温ガス炉を対象とした外的事象である地震起因の事故シーケンスを確率論的リスク評価手法により定量化するための手法を高温ガス炉の運転経験より得られたデータを用いて開発しており、独自の成果を得ていることは高く評価できる。 ・高温ガス炉に特有のものであるため、波及効果は限定的と考えられる。 		<p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>
A	<ul style="list-style-type: none"> ・高温ガス炉を対象とした外的事象である地震起因の事故シーケンスを確率論的リスク評価手法により定量化するための手法を高温ガス炉の運転経験より得られたデータを用いて開発しており、独自の成果を得ていることは高く評価できる。 ・高温ガス炉に特有のものであるため、波及効果は限定的と考えられる。 				
	<p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>				